

LINTEC WAVE

株主通信誌

JUNE 2025

97

社長インタビュー

長期ビジョンの実現に向けて 成長と変革を加速

代表取締役社長 社長執行役員

服部 真

第131期

(2025年3月期)

決算情報

証券コード：7966



波照間島（沖縄県）

「果てのウルマ（サンゴ礁）の島」を語源とする日本最南端の有人島。美しい自然が特徴で、独特の青い輝きを放つ海の色は「ハテルマブルー」と呼ばれる。

目次

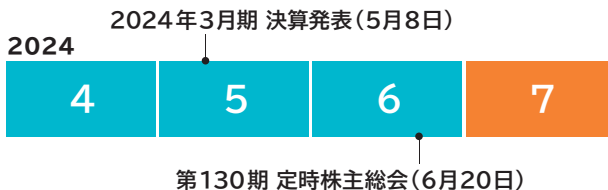
- 2 1年間の主な動き
- 4 社長インタビュー
長期ビジョンの実現に向けて
成長と変革を加速
代表取締役社長 服部 真
社長執行役員
- 8 研究開発特集
未来を創る研究開発の最前線
- 10 決算情報
- 12 セグメント情報
- 15 会社概要／役員一覧
- 16 主な連結子会社
- 18 株式情報
- 19 アンケートへのご協力をお願い

※当第3四半期連結会計期間において企業結合に係る暫定的な会計処理の確定を行っており、前連結会計年度に係る連結財政状態の数値については暫定的な会計処理の確定の内容を反映させています。

（免責事項）

業績予想などの将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績などはさまざまな要因により大きく異なる可能性があります。

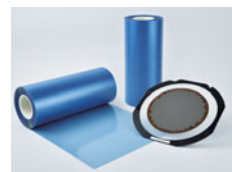
1年間の主な動き



- 4月1日
・新中期経営計画「LSV2030-Stage 2」がスタート



- 5月1日
・半導体チップの耐久性や信頼性を向上させるバン
プ保護フィルムを発売



- 7月27日
・大和インバスター・リレーションズ主催の個人投資家向け会社説明会に参加

- 8月26日
・自動車用ウインドーフィルムに高透明遮熱タイプの
の新アイテムを追加

- 9月3日
・企業版ふるさと納税を活用した福岡県への寄付
を発表



2025年3月期 第1四半期 決算発表(8月8日)

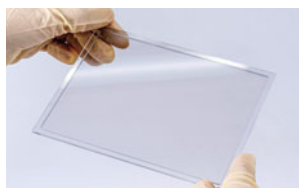


2025年3月期 第2四半期 決算発表(11月7日)

2025年3月期 第3四半期 決算発表(2月6日)

9月26日

- 先端半導体向け材料「EUV露光機用ペリクル」の量産体制確立を加速



10月28日

- 無漂白パルプの自然な色合いで高い撥水性を付与した未晒タイプのクラフト紙を発売



11月27日

- 再生PET樹脂を100%使用したガラス用フィルムを開発

11月29日

- 自己株式420万株の消却完了を発表

12月19～22日

- 「第93回 全日本フィギュアスケート選手権大会」に協賛

2月6日

- 2025年9月末までに300万株または100億円を上限に自己株式を取得することを発表

3月10日

- ホットメルト粘着剤を使用した繰り返し貼って剥がせるラベル素材「RE CHILL」を発売 ※P.8参照

3月27日

- 特殊紙の新ブランド「解決紙」の立ち上げを発表

解決紙

リントックの特殊紙

Pick Up

リントックの製品や技術を分かりやすくまとめた会社案内動画を作成し、YouTubeの当社公式チャンネルに掲載しました。



※動画は当社ホームページからも御覧いただけます。

www.lintec.co.jp/movie/corporation_pr.html

長期ビジョンの実現に向けて 成長と変革を加速

当社グループでは2030年を見据えた長期ビジョン「LINTEC SUSTAINABILITY VISION 2030 (LSV 2030)」を掲げ、その実現に向けたマイルストーンとして2027年3月期を最終年度とする中期経営計画「LSV 2030-Stage 2」を推進しています。同計画の初年度となった前期の振り返りや今後の見通しについて服部社長に聞きました。



2030年3月期 財務指標

売上高営業利益率 **12%以上**

ROE (自己資本当期純利益率) **10%以上**

代表取締役社長
社長執行役員

はっとり まこと
服部 真

Q 最初に前期業績の振り返りをお願いします。

A 2025年3月期の世界経済は、米国では個人消費や設備投資などの伸びが拡大したことで底堅く推移しましたが、我が国においては訪日外国人の増加によるインバウンド効果があったものの食料品などの価格高騰による買い控えによって個人消費が低迷するなど、停滞感が続きました。このような情勢の下、当社グループにおきましては、売上高は半導体・電子部品関連製品が好調な需要に支えられ大幅に増加したことに加え、米国においてシール・ラベル用粘着製品の販売数量が回復したことなどもあり総

じて好調に推移しました。利益面では原燃料価格や物流コストが引き続き上昇傾向にあったものの、半導体・電子部品関連製品に加えて他の製品についても販売数量が増加したことによる増益効果がありました。この結果、売上高と営業利益ともに過去最高を更新することができました。なお、当社の洋紙事業を取り巻く事業環境において、受注の低迷やパルプ・薬品のコスト上昇など極めて厳しい状況が続いていることを踏まえ、洋紙事業の将来の回収可能性を検討した結果、減損損失を計上いたしました。

2025年3月期連結業績(前期比)

売上高

315,978百万円(14.4%増)

営業利益

24,562百万円(131.1%増)

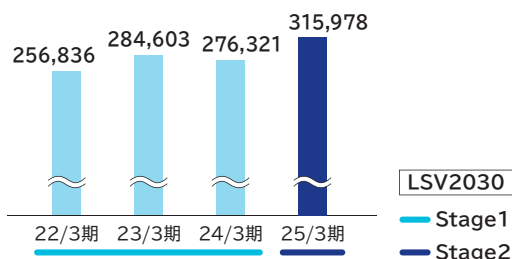
経常利益

26,090百万円(126.1%増)

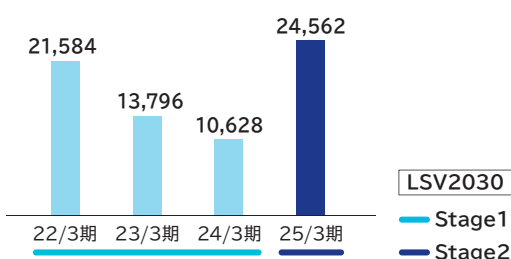
親会社株主に帰属する当期純利益

14,476百万円(176.1%増)

売上高 (百万円)



営業利益 (百万円)



Q 続いて前期の定性面での主な成果と今期の業績見通しについて教えてください。

A 前期はオプティカル材事業において偏光板の粘着加工事業を手がけていた韓国・台湾の生産子会社を解散し、洋紙事業においても減損損失を計上するなど、事業ポートフォリオの最適化の観点で収益の改善を図りました。また、設備投資面では需要の拡大が見込まれ、当社の成長をけん引する半導体・電子部品関連製品の生産能力を増強したほか、EUV露光機用ペリクルの量産体制確立に向けた活動など研究開発での取り組みも着実に推進しました。

2026年3月期につきましては、米国政府が実施する関税政策による世界経済への影響、地政学リスクの高まり、各国の金融政策による為替変動などが当社グ

ループの経営環境に大きな影響を及ぼすと見ています。こうした世界情勢に加えて、原燃料や輸送コストの上昇、人件費や新規生産設備導入による減価償却費などの固定費増加が利益を押し下げる要因となることもあり、業績予想は増収減益としています。

2026年3月期連結業績予想(前期比)

売	上	高	3,170億円 (0.3%増)	
営	業	利	益	240億円 (2.3%減)
経	常	利	益	240億円 (8.0%減)
親会社株主に帰属する 当期純利益				180億円(24.3%増)

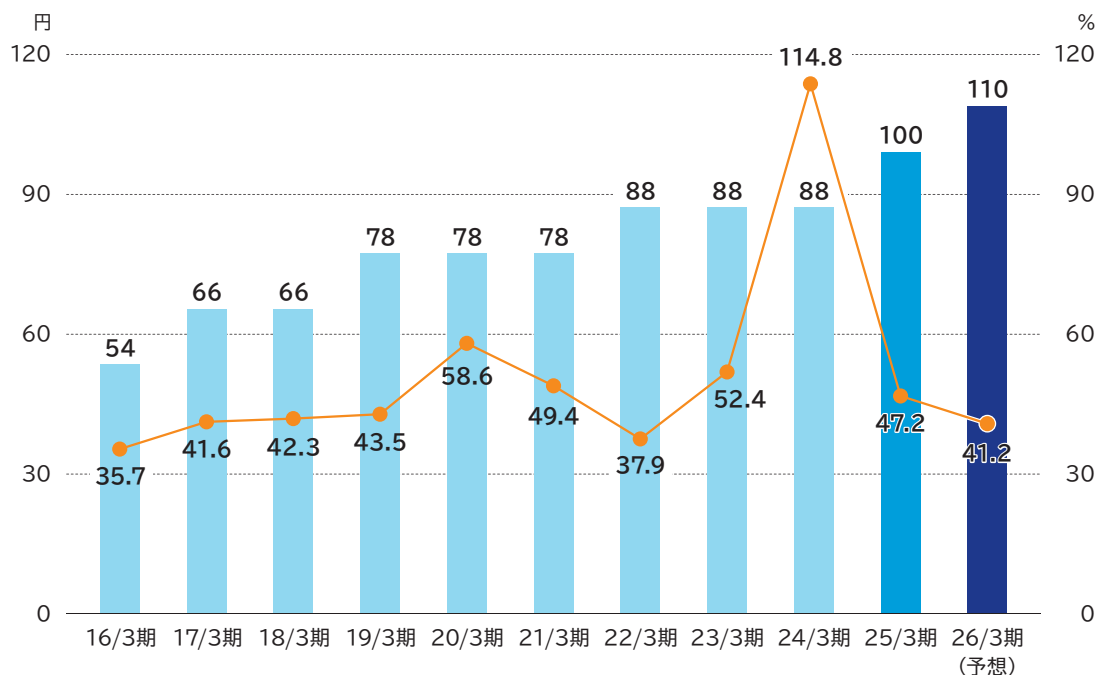
Q 株主還元についてはどのようにお考えですか。

A 当社では、「Stage 2」の最終年度である2027年3月期までは原則として減配せず、配当性向40%以上またはDOE(株主資本配当率)3%を目途に配当を行うこととしています。

前期の年間配当金は、業績が好調であったことから当初予想の88円から12円増額の100円とさせていただきました。今期につきましては通期連結業績予想を

踏まえ、前期から10円増額の110円を予定し、配当性向は41.2%となる見込みです。また、2025年2月には株主還元の一環として、300万株または100億円を上限とする自己株式取得を決議し、本年9月末までを期間として取得を進めています。当社は株主の皆様への利益還元を経営上の最重要課題の一つに位置づけており、今後も充実を図ってまいります。

1株当たり配当金の推移



最後に株主・投資家の皆様へのメッセージをお願いします。

「Stage 2」の2年目となる今期は前期の好調と力強さを維持しつつさらなる高みを目指し、成長と変革を加速することで、いかなる経営環境にあっても揺るぎのない強靱な企業へと変貌を遂げていきます。最終年度(2027年3月期)に掲げた売上高営業利益率やROEなどの経営目標を達成すべく、成長事業に対する積極的な投資や資産・資本効率の改善、事業ポートフォリオの最適化などに引き続き積極的に取り組み、継続的な

PBR(株価純資産倍率)1倍超えを目指してまいります。

株主・投資家の皆様には引き続きご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

2027年3月期(最終年度)経営目標

売上高営業利益率

8%以上

ROE(自己資本当期純利益率)

8%以上